

令和元年度 指定管理者年度評価シート

1 公の施設の基本情報

施設名称	千葉市大宮学園
条例上の設置目的	児童福祉法(昭和22年法律第164号)第6条の2の2第1項に規定する障害児通所支援を行う
ビジョン (施設の目的・目指すべき方向性)	障害児療育の専門性を高め、質の高い療育を提供し、心身の健やかな発達や集団生活への適応を支援すること。
ミッション (施設の社会的使命や役割)	心身に障害のある児童または心身の発達に遅れのある児童に対し、日常生活における基本的な動作の指導及び集団生活への適応訓練を行うこと。
制度導入により見込まれる効果	指定管理者制度導入により、市民サービスの向上と管理経費の縮減の効果を見込んでいます。
成果指標※	① 施設利用者数 ② 利用者アンケートにおける利用者満足度
数値目標※	① 定員充足率9割以上 ② 利用者アンケートにおける満足度9割以上
所管課	保健福祉局高齢障害部障害福祉サービス課

※ 成果指標及び数値目標は、選定時に設定したものである。

2 指定管理者の基本情報

指定管理者名	社会福祉法人千葉市社会福祉協議会
主たる事業所の所在地 (代表団体)	千葉市中央区千葉寺町1208番地2
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日(5年)
選定方法	非公募
非公募理由	次の理由により、公募の方法によらず千葉市社会福祉事業団(合併により、令和2年4月～は千葉市社会福祉協議会)を指定管理者とした。 (1) 専門性の高いスタッフの確保 医師や専門職によるサービスの提供が求められるため、専門性が高く、スタッフの確保が困難である。 (2) 利用者等との信頼関係 利用者及びその保護者と現在の指定管理者との信頼関係が構築されている。 (3) より質の高いサービス提供 これまでの経験を踏まえた、より質の高いサービス提供が期待できる。
管理運営費の財源	指定管理料

3 管理運営の成果・実績

(1) 成果指標に係る数値目標の達成状況

成果指標	数値目標※	R1年度実績	達成率※
施設利用者数	定員充足率90%以上	定員充足率72.2%	80.2%
利用者アンケートにおける利用者満足度	満足度90%以上	満足度84.7%	94.1%

※ 数値目標は選定時に設定した数値であり、市設定の数値を上回る目標を指定管理者が設定している場合、市設定の数値は括弧書きで表している。

(2) その他利用状況を示す指標

指 標	R1年度実績
施設利用者数	延べ 10,666人

4 収支状況

(1) 必須業務収支状況

ア 収入

(単位：千円)

費 目		R1年度	H30年度	計画実績差異・要因分析		
				差異		主な要因
指定管理料	実績	267,760	294,345	実績－計画	△ 20,033	人件費不用額市返納
	計画	287,793	297,674	計画－提案	△ 13,622	市による査定
	提案	301,415	300,372			
利用料金収入	実績	0	0	実績－計画	0	
	計画	0	0	計画－提案	0	
	提案	0	0			
その他収入	実績	7,938	5,491	実績－計画	7,938	拠点間資金移動
	計画	0	0	計画－提案	0	
	提案	0	0			
合計	実績	275,698	299,836	実績－計画	△ 12,095	
	計画	287,793	297,674	計画－提案	△ 13,622	
	提案	301,415	300,372			

イ 支出

(単位：千円)

費 目		R1年度	H30年度	計画実績差異・要因分析		
				差異		主な要因
人件費	実績	197,839	209,498	実績－計画	△ 13,366	人事異動、育児休暇1名、常勤職員欠員1名
	計画	211,205	214,547	計画－提案	△ 15,266	市による査定
	提案	226,471	223,655			
事務費	実績	11,307	12,767	実績－計画	△ 832	出張等の縮小
	計画	12,139	12,054	計画－提案	△ 320	市による査定
	提案	12,459	12,742			
事業費	実績	14,758	16,507	実績－計画	△ 1,395	水道光熱費の減少
	計画	16,153	17,065	計画－提案	△ 3,371	市による査定
	提案	19,524	19,480			
委託費	実績	42,157	49,306	実績－計画	△ 629	契約差金
	計画	42,786	49,641	計画－提案	5,688	自動車運行管理業務委託費の増加
	提案	37,098	37,098			
その他	実績	4,259	3,848	実績－計画	△ 157	人事異動による退職給付積立変動
	計画	4,416	3,216	計画－提案	△ 503	人事異動による退職給付積立変動
	提案	4,919	6,453			
本社費・共通費	実績	6,899	6,259	実績－計画	5,805	前年度人件費等残額の事務局繰入額
	計画	1,094	1,151	計画－提案	150	拠点区分間繰入金支出（事務局経費）の増加
	提案	944	944			
合計	実績	277,219	298,185	実績－計画	△ 10,574	
	計画	287,793	297,674	計画－提案	△ 13,622	
	提案	301,415	300,372			

※「計画」とは、事業年度ごとの事業計画書で定めた計画額を示す。

「提案」とは、選定時の提案書、事業計画書で指定管理者が提案した見積額を示す。

本社費・共通費の配賦基準・算定根拠

千葉市社会福祉事業団の各事業（指定管理事業、委託事業）予算額に応じて按分。

(2) 収支状況

(単位：千円)

		R1年度	H30年度
必須業務	収入合計	275,698	299,836
	支出合計	277,219	298,185
	収 支	△ 1,521	1,651
自主事業	収入合計	0	0
	支出合計	0	0
	収 支	0	0
総収入		275,698	299,836
総支出		277,219	298,185
収 支		△ 1,521	1,651
利益の還元額			
利益還元の内容			

5 管理運営状況の評価

(1) 管理運営による成果・実績（成果指標の目標達成状況）

評価項目	市の評価	特記事項
定員充足率9割以上	D	80.2%
利用者アンケートにおける満足度9割以上	C	94.1%

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。

A：成果指標が市設定の数値目標の120%以上（ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はBとする。）

B：成果指標が市設定の数値目標の105%以上120%未満（ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はCとする。）

C：成果指標が市設定の数値目標の85%以上105%未満

D：成果指標が市設定の数値目標の60%以上85%未満

E：成果指標が市設定の数値目標の60%未満

(2) 市の施設管理経費縮減への寄与

評価項目	市の評価	特記事項
市の指定管理料支出の削減	A	11.2%の削減

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。

A：選定時の提案額から10%以上の削減

B：選定時の提案額から5%以上10%未満の削減

C：選定時の提案額と同額又は5%未満の削減

(D・E：選定時の提案額を超える支出を行うことはないため、該当なし)

ー：対象外（市の指定管理料支出がない。）

(3) 管理運営の履行状況

評価項目		自己評価	市の評価	特記事項
1 市民の平等利用の確保・施設の適正管理				
	市民の平等利用の確保	C	C	・千葉市大宮学園設置管理条例及び管理規則に基づき、適切に施設管理を行った。 ・安全管理マニュアル、事故対応マニュアル、感染症予防マニュアル等に従い適切に指定管理を行った。 ・毎月避難訓練を行った
	関係法令等の遵守			
	リスク管理・緊急時対応			
2 施設管理能力				
	(1) 人的組織体制の充実	C	C	・職場内研修及び外部研修等の受講を推進した。
	管理運営の執行体制			
	必要な専門職員の配置			
	従業員の能力向上			
	(2) 施設の維持管理業務	C	C	・日常点検・定期点検を適正に実施した。
	施設の保守管理			
	設備・備品の管理・清掃・警備等			
3 施設の効用の発揮				
	(1) 幅広い施設利用の確保	C	C	・設置管理条例及び管理規則に基づき、開館時間及び休館時間を遵守した。
	開館時間・休館日			
	利用料金設定・減免			
	利用促進の方策			
	(2) 利用者サービスの充実	C	C	・各ルームにおいてアンケートを年2回実施した。 ・意見箱を常置した。
	利用者への支援			
	利用者意見聴取・自己モニタリング			
	(3) 施設における事業の実施	C	C	・自主事業として継続して園児兄弟・姉妹預かり事業を実施した。
	施設の事業の効果的な実施			
	自主事業の効果的な実施			
4 その他				
	市内業者の育成	C	C	・積極的に市内業者を利用した。
	市内雇用への配慮			
	障害者雇用の確保			
	施設職員の雇用の安定化への配慮			

【評価の内容】

- A：管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を上回る、特に優れた管理運営が行われていた。
 B：管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を上回るなど、優れた管理運営が行われていた。
 C：概ね管理運営の基準・事業計画書等に定める水準どおりに管理運営が行われていた。
 D：一部、管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を満たしておらず、改善の余地がある管理運営が行われていた。
 E：管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を満たしておらず、速やかな改善が求められる管理運営が行われていた。

(4) 保健福祉局指定管理者選定評価委員会意見を踏まえた対応

意見の内容	意見対象年度	対応・改善の内容
管理運営については、概ね適切に管理が行われているが、適切な成果指標や数値目標を設定し、評価指標の検討をしていただきたい。	H30年度	成果指標目標達成状況に対する評価基準の修正を検討している。（令和2年度分までは現在の評価基準を継続）

6 利用者ニーズ・満足度等の把握

(1) 指定管理者が行ったアンケート調査

実施内容	調査方法	各施設にてアンケート用紙を保護者に配布し、施設利用時に回収（年2回）
	回答者数	延べ225名
	質問項目	・職員の配置数や専門性について ・療育内容について ・親子通園について ・個別支援計画について ・家族支援について等
結果	ア ひまわりルーム(福祉型児童発達支援センター) 前期配布数39、回答数36 回答率92.3% (1) 職員の配置数や専門性は適切でしたか: とてもそう思う19人(52%)そう思う14人(39%)どちらともいえない2人(6%) あまりそう思わない0人(0%)そう思わない1人(3%)わからない0人(0%) (2) 療育プログラムは合っていたか: とてもそう思う13人(36%)そう思う17人(48%)どちらともいえない5人(14%) あまりそう思わない0人(0%)そう思わない0人(0%)わからない1人(3%) (3) 親子通園の内容は適切でしたか: とてもそう思う11人(30%)そう思う23人(64%)どちらともいえない1人(3%)あまりそう思わない0人(0%) そう思わない1人(3%)わからない0人(0%) (4) 個別支援計画に沿った支援が行われていたか: とてもそう思う16人(44%)そう思う18人(51%)どちらともいえない2人(5%) あまりそう思わない0人(0%)そう思わない0人(0%)わからない0人(0%) (5) 保護者等に対して家族支援プログラムが行われていたか: とてもそう思う16人(44%)そう思う12人(33%)どちらともいえない3人(8%) あまりそう思わない2人(6%)そう思わない1人(3%)わからない2人(6%) 後期: 配布数40、回答数34 回答率85% (1) 職員の配置数や専門性は適切でしたか: とてもそう思う20人(59%)そう思う13人(38%)どちらともいえない1人(3%) あまりそう思わない0人(0%)そう思わない0人(0%)わからない0人(0%) (2) 療育プログラムは合っていたか: とてもそう思う15人(44%)そう思う17人(50%)どちらともいえない2人(6%)あまりそう思わない0人(0%) そう思わない0人(0%)わからない0人(0%) (3) 親子通園の内容は適切でしたか: とてもそう思う14人(41%)そう思う20人(59%)どちらともいえない0人(0%)あまりそう思わない0人(0%) そう思わない0人(0%)わからない0人(0%) (4) 個別支援計画に沿った支援が行われていたか: とてもそう思う16人(47%)そう思う17人(50%)どちらともいえない1人(3%) あまりそう思わない0人(0%)そう思わない0人(0%)わからない0人(0%) (5) 保護者等に対して家族支援プログラムが行われていたか: とてもそう思う18人(53%)そう思う13人(38%)どちらともいえない3人(9%) あまりそう思わない0人(0%)そう思わない0人(0%)	
	イ たけのこルーム(医療型児童発達支援センター) 前期配布数19、回答数16 回答率84% (1) 職員の配置数や専門性は適切でしたか: とてもそう思う7人(44%)そう思う8人(50%)どちらともいえない1人(6%) あまりそう思わない0人(0%)そう思わない0人(0%)わからない0人(0%) (2) 療育内容について 1) 午前保育は利用児が楽しめていたか: とてもそう思う9人(56%)そう思う6人(38%)どちらともいえない0人(0%)あまりそう思わない0人(0%) そう思わない0人(0%)わからない1人(6%)該当しない0人(0%) 2) 午後保育は利用児が楽しめていたか: とてもそう思う7人(43%)そう思う5人(31%)どちらともいえない0人(0%)あまりそう思わない0人(0%) そう思わない0人(0%)わからない2人(13%)該当しない2人(13%) 3) 分離保育は利用児が楽しめていたか: とてもそう思う7人(44%)そう思う6人(38%)どちらともいえない1人(6%)あまりそう思わない0人(0%) そう思わない0人(0%)わからない1人(6%)該当しない1人(6%) (3) 個別支援計画に沿った支援が行われていたか: とてもそう思う5人(31%)そう思う9人(57%)どちらともいえない0人(0%) あまりそう思わない0人(0%)そう思わない1人(6%)わからない1人(6%) (4) 保護者等に対して家族支援プログラムが行われていたか: とてもそう思う4人(25%)そう思う8人(50%)どちらともいえない2人(13%) あまりそう思わない0人(0%)そう思わない1人(6%)わからない1人(6%) 後期配布数23、回答数17 回答率74% (1) 職員の配置数や専門性は適切でしたか: とてもそう思う2人(12%)そう思う6人(35%)どちらともいえない7人(41%) あまりそう思わない2人(12%)そう思わない0人(0%)わからない0人(0%)	

(2)療育内容について

- 1)午前保育は利用児が楽しめていたか:とてもそう思う11人(65%)そう思う5人(29%)どちらともいえない0人(0%)あまりそう思わない0人(0%)そう思わない0人(0%)わからない1人(6%)該当しない0人(0%)
- 2)午後保育は利用児が楽しめていたか:とてもそう思う5人(29%)そう思う8人(47%)どちらともいえない0人(0%)あまりそう思わない0人(0%)そう思わない0人(0%)わからない1人(6%)該当しない3人(18%)
- 3)分離保育は利用児が楽しめていたか:とてもそう思う8人(47%)そう思う6人(35%)どちらともいえない0人(0%)あまりそう思わない0人(0%)そう思わない0人(0%)わからない1人(6%)該当しない2人(12%)
- (3)個別支援計画に沿った支援が行われていたか:とてもそう思う2人(12%)そう思う12人(70%)どちらともいえない3人(18%)あまりそう思わない0人(0%)そう思わない0人(0%)わからない0人(0%)
- (4)保護者等に対して家族支援プログラムが行われていたか:とてもそう思う3人(18%)そう思う7人(41%)どちらともいえない3人(18%)あまりそう思わない1人(6%)そう思わない1人(6%)わからない2人(11%)

ウ たけのこルーム(児童発達支援事業)

前期配布数102、回答数60 回答率59%

- (1)職員の配置数や専門性は適切でしたか:とてもそう思う28人(46%)そう思う27人(45%)どちらともいえない4人(7%)あまりそう思わない1人(2%)そう思わない0人(0%)わからない0人(0%)
- (2)療育内容は適切でしたか:とてもそう思う21人(35%)そう思う35人(59%)どちらともいえない2人(3%)あまりそう思わない0人(0%)そう思わない0人(0%)わからない2人(3%)
- (3)個別支援計画に沿った支援が行われていたか:とてもそう思う15人(25%)そう思う33人(55%)どちらともいえない7人(12%)あまりそう思わない0人(0%)そう思わない0人(0%)わからない5人(8%)
- (4)保護者等に対して家族支援プログラムが行われていたか:とてもそう思う11人(18%)そう思う25人(42%)どちらともいえない9人(15%)あまりそう思わない3人(5%)そう思わない1人(2%)わからない11人(18%)

後期配布数100、回答数62 回答率62%

- (1)職員の配置数や専門性は適切でしたか:とてもそう思う22人(36%)そう思う21人(34%)どちらともいえない12人(18%)あまりそう思わない3人(5%)そう思わない1人(2%)わからない3人(5%)
- (2)療育内容は適切でしたか:とてもそう思う24人(39%)そう思う27人(44%)どちらともいえない7人(11%)あまりそう思わない0人(0%)そう思わない2人(3%)わからない2人(3%)
- (3)個別支援計画に沿った支援が行われていたか:とてもそう思う9人(15%)そう思う6人(10%)どちらともいえない16人(26%)あまりそう思わない4人(6%)そう思わない7人(11%)わからない20人(32%)
- (4)保護者等に対して家族支援プログラムが行われていたか:とてもそう思う12人(19%)そう思う32人(51%)どちらともいえない10人(16%)あまりそう思わない1人(2%)そう思わない3人(5%)わからない4人(7%)

(2)市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応

主な意見・苦情	指定管理者の対応
感染症にかかったお子さんがいる時に、所属クラスだけでなくひまわりルーム全員にメール送信をしてほしい。	感染症に利用児が罹患した場合は、ルーム全員にメール配信をして情報共有と注意喚起をするようにした。
たけのこルーム児童発達支援事業の担当職員が急に変わったりするため、不安を感じる。	担当職員の中途退職により不安を与えたが、流動的ではなく、担当する職員を固定することで、安心して療育に参加できるよう体制を整えた。

7 総括

(1) 指定管理者による自己評価

総括 評価	C	所見	施設全般 ・事業計画に沿って概ね計画どおり運営できた。 ・施設維持管理については法令等に基づき点検等を実施し、必要に応じ順次修繕を実施し、利用児が安全かつ快適に施設利用できる状態を維持した。 ひまわりルーム ・移行に関心のある保護者やお子さんが日々の療育の積み重ねにより成長し、ひまわりルーム以外の集団が望ましいと思われる保護者に対し、安心して地域の保育所や幼稚園に移行できるよう、近隣の保育所での「親子体験」、「保育所・幼稚園児との保育交流」、公立保育所長や幼稚園長を招いての「統合保育」講演会を行った結果、公立保育所1名、保育園1名移行した。 ・医療的ケアを必要とする知的障害児に対する支援については、平成31年4月より1名の児童(気管切開)を母子通園で受け入れ、段階的に活動場面での館内母子分離を経験したり、近隣の保育所や幼稚園との交流などを経て保育園へ移行した。 たけのこルーム ・医療型児童発達支援センターは、平成30年度に引き続き0～5歳児の分離保育(シエスタ保育)を実施した事で参加者が増え、保護者から「自分の時間が持てた」「保護者同士の情報交換が出来た」等の感想を得られた。また、年長児を中心に保護者分離による食事介助を行い、保護者に分離中の児童の様子を伝えけるとともに、食育の大切さや摂食指導など家庭での食事につながる支援に努めたが、一日の利用人数は、平成30年度の5.7人から5.1人へ減少した。 ・児童発達支援事業においては、利用児が通っている保育所・幼稚園などに職員が出向き、児への関わり方や支援の方法について情報の共有化を図るなど、連携強化に努めた。また、定期的に個別相談を実施し、保護者支援に努めた。
----------	---	----	---

(2) 市による評価

総括 評価	C	所見	・事業計画に基づき適切に管理運営を行っている。 ・通園児兄弟・姉妹預かり事業において、書面上や口頭での保護者への周知を積極的に行い、療育環境の整備に努めた。 ・ひまわりルームにおいて、保育所等への移行を希望している保護者への移行支援を行い、2名が保育所等へ移行した。 ・平成29年度から医療的ケアの項目とし追加した胃瘻からの食事注入について、令和元年度も引き続き取り組み、該当する利用者1名と契約をし療育の提供を行った。 ・特別支援学校や保育所等関係機関との連携を深めた。
----------	---	----	--

【評価の内容】

- A：市が指定管理者に求める水準等を大きく上回る、特に優れた管理運営が行われていた。
 B：市が指定管理者に求める水準等を上回る、優れた管理運営が行われていた。
 C：概ね市が指定管理者に求める水準等に則した、良好な管理運営が行われていた。
 D：管理運営の一部において市が指定管理者に求める水準等に達しておらず、改善の余地のある管理運営が行われていた。
 E：管理運営全般において市が指定管理者に求める水準等に達しておらず、速やかな改善が求められる管理運営が行われていた。

(3) 保健福祉局指定管理者選定評価委員会の意見

- ・財務状況については、本部会に提出された財務諸表等の資料を確認した範囲では、倒産や撤退等のリスクは認められず、特段の問題はないと認められる。
- ・管理運営については、概ね適切に管理が行われている。